

# 軽度発達障害児のための SST 学習ソフトの開発

(指導教員 世木 秀明 助教授)  
世木研究室 0131099 服部 直樹

## 1.はじめに

学習障害児や注意欠陥多動性障害児、高機能自閉症などの軽度発達障害児とされる子供たちの中には、社会的な状況に応じて良好な人間関係を築き、維持していくことを苦手とする子供達がいる。このような子供達の社会適応能力を向上させるための知識や技能を形成したり修正したりするための訓練としてソーシャルスキルトレーニング (SST)がある。

一方、障害児に対し知識を獲得するためにコンピュータを用いることが近年増えており、軽度発達障害児の動機付けが高められ、学習の促進が期待されている。このような要求に対して、正誤のフィードバックが正確に行える学習プログラムが作成されているが、理解を促す段階的な援助(ヒント)を与えて正答まで導くような学習プログラムは作成されていない。

そこで、本研究では軽度発達障害児に対して、ソーシャルスキルの知識を習得していくためのヒント付きの学習プログラムの開発を行うことを目的とした。

## 2. SST 学習システムの概要

図 1 に SST 学習システムのイメージ図を示す。

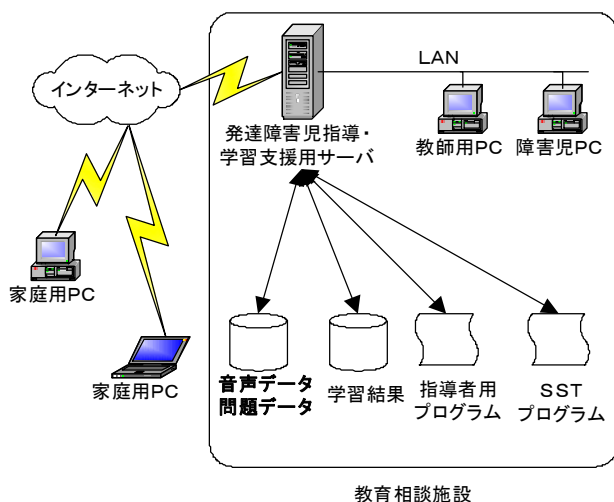


図 1 SST 学習ソフトのシステムイメージ

学習者はインターネットを経由して、発達障害児指導・学習支援用サーバに接続し、学習を行う。学習結果は、データベースに保存され、指導者は学習内容を参照することで、児童の学習状態を把握することが可能である。

本研究で開発したプログラムは、Macromedia社製 FLASH MX および、データベース操作スクリプト PHP を使用して開発した。また、サーバの OS には、

Linux を使用し、WWW サーバとして Apache、データベースサーバとして MySQL を使用した。

## 3. SST 学習プログラム

開発した SST 学習プログラムの画面例を図 2 に示す。SST 学習プログラムは、「生活習慣やルールなどの基本的知識」、「状況の認知—他者の感情の理解—」、「意思伝達・感情のコントロール」、「注意の仕方」、「問題解決」の 5 項目で構成されており、提示された問題に対する適切な解答を選択肢の中から選ぶことで学習を進めていく。選択された問題で、誤答するとヒントが表示され、再び誤答を選択すると正答選択肢の色が変化し確実に正解に導く。

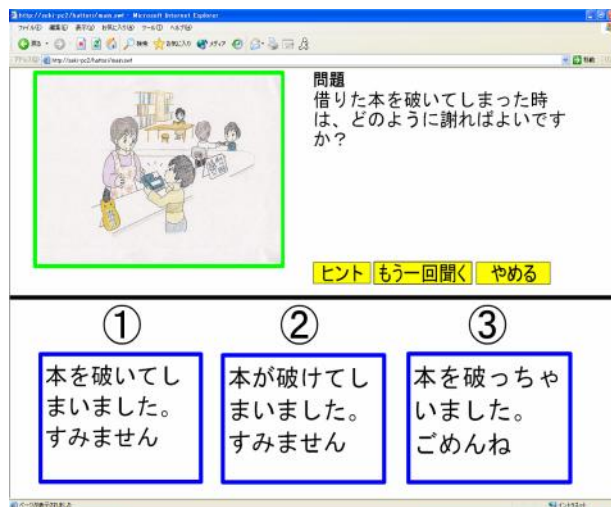


図 2 開発した SST プログラムの画面例

## 4.まとめ

本システムを障害児教育の専門家に試用してもらったところ、次のような意見を頂いた。

- 1) 障害児が興味を持って学習を行うことができる。
- 2) アスペルガー症候群や自閉症の児童に問題を試したところ、ヒントによって正答率の向上が見られた。
- 3) 学習結果を参照することで、個々の理解度の把握や今後の指導に役立てることができる。

一般にソーシャルスキルの知識は、普通の学習と違い、状況認知が伴うが、本研究で開発した SST 学習プログラムは、問題に誤答するとその状況に応じたヒントが表示されるので、その状況を理解しながら学習を進めていくことが可能である。また、正答選択肢の色を変化させ、確実に問題の正答に導くことで学習効率が向上すると考えられる。